

2016 年度研究会報告書

研究課題名：中東社会における宗教宗派的・政治社会的少数派に関する研究

第 1 回

日時：2016 年 9 月 1 日（木）、2 日（金） 10:00-14:00（両日とも）

会場：バイルート中東研究日本センター（JaCMES）

参加者：Antranik Dakessian、Ray Mouawad、Souad Slim、高橋英海、吉村貴之、若松大樹（以上、AA 研共同研究員）、黒木英充、錦田愛子、近藤洋平（以上、AA 研所員）（ほかにオブザーバー数名）

研究会概要：研究会初回ということで、お互いを知るといふ自己紹介も兼ねて、参加者各人は、これまで進めてきた自身の研究に触れるとともに、本プロジェクトで取り組みそうなテーマを挙げた。一日目の冒頭で研究代表者（近藤）が中東地域の諸少数派集団について、先行研究をもとにして概観した。続いて、近藤発表は、18 世紀から 19 世紀におけるオマーンに暮らした諸宗教・諸民族集団の動向について、イバード派、ハイダラバーディーヤ、ユダヤ教徒などを例として挙げ、諸集団の活動の特徴を明らかにした。若松発表は、トルコ共和国に暮らすアレヴィーについて、その歴史や地理的分布、言語的特徴を押さえつつ、彼らが抱える諸問題を紹介した。錦田発表は、ヨルダンやレバノンに暮らすパレスチナ難民の現状を、レバノン国内の宗教・宗派間関係などから説明した。Dakessian 発表は、バイルートの Burj Hammud にあるアルメニア人地区の特徴を、建築様式や都市計画等から説明した。

二日目は、はじめに研究会を欠席となった Hourani 発表及び辻発表について、両名から提出された内容に目を通した。続いて黒木発表は、西暦 19 世紀のシリア、アレッポの人口構成（宗教宗派人口、年齢、各地区の集住パターン）を、法廷台帳等を利用して説明した。また高橋発表は、西暦 8 世紀から 14 世紀のユーラシア大陸における東方キリスト教会の動向を、アラビア語、シリア語および漢文史料から紹介した。Slim 発表は 19 世紀のレバノンにおけるギリシア正教徒たちの教育活動について触れ、Mouawad 発表は 17 世紀のトリポリ・シャームにおけるユダヤ教徒、キリスト教徒の活動の様子を、図像資料から説明した。最後に、吉村発表は、近現代におけるアルメニア人の活動を、冷戦時代のアルメニア、およびレバノン内戦の例から説明した。

研究会の最後に、今後のプロジェクトの方向性について確認し、各人が専門とする、あるいは関心をもつ集団の「生き残り戦略」について考察することで研究者間の一致をみた。

（近藤洋平）

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.
